

CA SiteMinder®

SDK リリース ノート

r12.0 SP3



このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2010 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
第 2 章: このリリースの新機能	9
新しい SAML プロパティ.....	9
第 3 章: オペレーティング システムのサポート	11
第 4 章: システム要件	13
第 5 章: インストールに関する考慮事項	15
ローカライズ版のインストールに関する考慮事項.....	15
Windows でのインストール.....	15
Windows Server 2008 システムの考慮事項.....	16
UNIX での GUI モードのインストール.....	17
UNIX のコンソール モードでのインストール.....	19
Windows での無人インストール.....	20
UNIX での無人インストール.....	21
SDK のアンインストール.....	22
第 6 章: 一般的な考慮事項	23
ポリシー管理 API.....	23
カスタム エージェントでの SSO のサポート.....	23
カスタム エージェントおよび SiteMinder r12.0 SP3.....	24
LDAP SDK の統合.....	24
第 7 章: 既知の問題	25
HP-UX 上で実行されるカスタム エージェントに必須のパッチ プログラム.....	25
UNIX プラットフォーム上の smpolicyapi Samplr に関する問題.....	25
Java PM API で階層領域がサポートされない.....	26
Java ポリシー管理 API で見つからない定数がある(13348).....	26

Java で属性の末尾がスペースになる (13712)	27
Java AgentAPI.getConfig() で余分な ServerDef が作成される (14841)	27
Java SmPolicyApilmpl.search() でドメイン オブジェクトを検索できない (15133)	27
Java SmDMSCurson オブジェクト内の並べ替え順序を空にできない (15317)	27
C での一般的なパスワード検証エラー (16787)	28
getConfig() Java メソッドが Windows 環境で失敗する (39780)	28
第 8 章: r12 SP1 および SP2 で修正された問題	29
レール フィルタが一意ではないというエラーが発生する (85423)	29
decodeSSOToken 関数による SSO SMSESSION Cookie の正常なデコード (82495/79193)	30
Pure Java API によるより大きなバッファ サイズのサポート (79220/82496)	30
第 9 章: r12 SP3 で修正された問題	31
トラステッド ホストに対してポリシー サーバの再起動が必要 (95465)	31
Pure Java エージェント API でセッション ID を無視/上書きする (113753)	31
DMS API getGroups メソッドの失敗 (114378)	32
Java API で新しいパスワード値を取得できない (114394)	32
第 10 章: 国際化サポート	33
第 11 章: マニュアル	35
SiteMinder マニュアル選択メニュー	35
マニュアルのリリース番号	35

第 1 章: はじめに

このドキュメントには、オペレーティング システムのサポート、インストールに関する考慮事項、既知の問題、修正項目、CA テクニカル サポートへの問い合わせに関する情報が含まれています。

第 2 章: このリリースの新機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新しい SAML プロパティ](#) (P. 9)

新しい SAML プロパティ

このリリースには、新しい SAML プロパティが含まれています。

- `SAML_DSIG_ALGO` は、デジタル署名アルゴリズムを指定します。
- `SAML_SP_ONE_TIME_USE` は、アフィリエイトでアサーションが 1 回だけ使用されることを指定します。SAML1.x については、以下の C++ 機能が追加されました。
 - `Sm_PolicyApi_AddOnceTimeUsePropertyToAffiliate()`
 - `Sm_PolicyApi_GetOneTimeUsePropertyFromAffiliate()`

第 3 章: オペレーティング システムのサポート

SDK のオペレーティング システム サポートについて知るには、テクニカル サポートの[サイト](#)で **SiteMinder Platform Support Matrix for SiteMinder r12** を参照してください。このマトリックスには、**SiteMinderr12.0 SP3** でサポートされるプラットフォームが記載されています。

SDK プラットフォーム サポート マトリックスは、通常は **SiteMinder Platform Support Matrix** に含まれています。

注: 以前のリリースでサポートされたプラットフォームの一部が、現在ではサポートされなくなっている場合があります。

第 4 章：システム要件

必要な JRE バージョンがインストールされていることを確認します。必要なバージョンについては、[テクニカル サポート サイト](#)で SiteMinder r12 のプラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。

SiteMinder SDK r12.0 SP3 で開発されたアプリケーションは、v6.0 より前のバージョンのポリシー サーバに対して実行できません。SDK の前のバージョンで開発されたアプリケーション、および SiteMinder ポリシー サーバ v5.0、v5.5、6.x で動作するアプリケーションは、ポリシー サーバ r12.0 SP3 で引き続き動作します。

第 5 章: インストールに関する考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ローカライズ版のインストールに関する考慮事項](#) (P. 15)

[Windows でのインストール](#) (P. 15)

[UNIX での GUI モードのインストール](#) (P. 17)

[UNIX のコンソール モードでのインストール](#) (P. 19)

[Windows での無人インストール](#) (P. 20)

[UNIX での無人インストール](#) (P. 21)

[SDK のアンインストール](#) (P. 22)

ローカライズ版のインストールに関する考慮事項

英語以外のオペレーティング システムがインストールされたシステムに SiteMinder SDK をインストールする場合、以下の点に注意してください。

- SiteMinder のローカライズ版は、対応するオペレーティング システムにインストールする必要があります。

たとえば、日本語版の SiteMinder SDK は、日本語オペレーティング システムにインストールする必要があります。日本語版の SDK は、英語オペレーティング システム上では正常に動作しません。

- `smpolicyapi` は、UTF-8 ベースの API であるため、入力は UTF-8 エンコード文字である必要があります。出力パラメータとしても UTF-8 エンコード文字が返されます。

Windows でのインストール

SiteMinder SDK をインストールするのに特別に必要となるアカウントまたは権限はありません。SDK の最初のバージョンをインストールする場合と、既存のバージョンからアップグレードする場合の手順は同じです。

ポリシー サーバまたは Web エージェントがインストールされているインストールパスに SiteMinder SDK をインストールすることはしないでください。同じサポートライブラリのバージョンが異なる可能性があるためです。

Windows に SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#)から SiteMinder SDK をダウンロードします。
3. win32 ディレクトリに移動し、以下のプログラムを実行します。

ca-sdk-12.0-sp3-win32.exe

ウィザードのプロンプトに従います。

Windows Server 2008 システムの考慮事項

Windows Server 2008 では、ユーザ アカウント制御機能によって、許可されていない変更がシステムに加えられるのを防ぎます。ユーザ アカウント制御機能が Windows Server 2008 オペレーティング環境で有効な場合、SiteMinder コンポーネントで以下のタスクのいずれかを実行するには、事前にいくつかの手順を実行しておく必要があります。

- インストール
- 設定
- 管理
- アップグレード

注: Windows Server 2008 をサポートする SiteMinder コンポーネントの詳細については、SiteMinder プラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder インストールまたは設定ウィザードを実行する方法

1. 実行ファイルを右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
[ユーザー アカウント制御]ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
2. [許可]ボタンをクリックします。
ウィザードが開始します。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder ポリシー サーバ管理コンソールにアクセスする方法

1. ショートカットを右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
[ユーザー アカウント制御]ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
2. [許可]ボタンをクリックします。
ポリシー サーバ管理コンソールが開きます。

Windows Server 2008 システム上で SiteMinder コマンド ライン ツールまたはユーティリティを実行する方法

1. [コントロール パネル]を開きます。
2. [タスク バーと[スタート]メニューのプロパティ]で、クラシック[スタート]メニューではなく、[スタート]メニューが設定されていることを確認します。
3. [スタート]をクリックし、検索の開始フィールドに以下を入力します。
`Cmd`
4. **Ctrl + Shift + Enter** キーを押します。
[ユーザー アカウント制御]ダイアログ ボックスが表示され、許可を求められます。
5. [続行]をクリックします。
より高い権限でコマンド ウィンドウが表示されます。タイトル バーのテキストは「Administrator」で開始されています。
6. SiteMinder コマンドを実行します。

詳細情報:

[CA への連絡先](#) (P. iii)

UNIX での GUI モードのインストール

ポリシー サーバまたは Web エージェントがインストールされているインストールパスに SiteMinder SDK をインストールすることはしないでください。同じサポートライブラリのバージョンが異なる可能性があるためです。

注: SiteMinder SDK を Linux システムにインストールする場合、オペレーティング環境に適切な 32 ビット C ランタイム ライブラリ (libstdc++.so.5) があることを確認してください。このライブラリを取得するには、以下の rpm をインストールします。

- `compat-libstdc++-33.3.2.3-patch_version.i386.rpm`
- `compat-fcc-32-c++-3.2.3-47.3-patch_version.i386.rpm`

UNIX の場合、インストール実行ファイルは `ca-sdk-12.0-sp3-platform.bin` です。

SDK は GUI モードまたはコンソール モードでインストールできます。

UNIX GUI モードで SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#) から SiteMinder SDK をダウンロードします。
3. UNIX シェルの場合、お使いのプラットフォームに対応するディレクトリに移動します (Solaris、aix、linux、または hpux)。
4. 以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.0-sp3-OS.bin
```

OS

OS を、sol、aix、linux、suse、または hp で置き換えます。

たとえば、Solaris プラットフォームの場合、コマンドは以下のようになります。

```
sh ./ca-sdk-12.0-sp3-sol.bin
```

5. インストール ウィザードのプロンプトに従います。

UNIX のコンソール モードでのインストール

SiteMinder SDK をインストールするのに特別に必要となるアカウントまたは権限はありません。SDK の最初のバージョンをインストールする場合と、既存のバージョンからアップグレードする場合の手順は同じです。

注: SiteMinder SDK を Linux システムにインストールする場合、オペレーティング環境に適切な 32 ビット C ランタイム ライブラリ (`libstdc++.so.5`) があることを確認してください。このライブラリを取得するには、以下の rpm をインストールします。

- `compat-libstdc++-33.3.2.3-patch_version.i386.rpm`
- `compat-fcc-32-c++-3.2.3-47.3-patch_version.i386.rpm`

ポリシー サーバまたは Web エージェントがインストールされているインストールパスに SiteMinder SDK をインストールすることはしないでください。同じサポートライブラリのバージョンが異なる可能性があるためです。

UNIX の場合、インストール実行ファイルは `ca-sdk-12.0-sp3-platform.bin` です。

SDK は GUI モードまたはコンソール モードでインストールできます。

UNIX コンソール モードで SDK をインストールする方法

1. すべてのプログラムを終了します。
2. [CA テクニカル サポート サイト](#) から SiteMinder SDK をダウンロードします。
3. UNIX シェルの場合、お使いのプラットフォームに対応するディレクトリに移動します (Solaris、aix、linux、または hpux)。
4. 以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.0-sp3-platform.bin -i console  
platform
```

`platform` を、`sol`、`aix`、`linux`、`suse`、または `hp` で置き換えます。

たとえば、Solaris プラットフォームの場合、コマンドは以下のようになります。

```
sh ./ca-sdk-12.0-sp3-sol.bin -i console
```

インストール ウィザードのプロンプトに従います。

Windows での無人インストール

SiteMinder SDK を手動でインストールした後は、同じシステム、または別のシステムにサイレント インストール モードを使用してインストールすることができます。無人インストールは、インストール基本設定のプロパティファイルを参照するコマンドを使用して行います。デフォルトのプロパティファイルのテンプレート (`install_config_info` フォルダ内の `sdk-installer.properties`) は要件に応じて変更可能です。

Windows にサイレント モードで SDK をインストールする方法

1. SDK の実行可能ファイルが存在するディレクトリへ移動します。
2. コマンドプロンプトから、以下のコマンドを入力します。

```
ca-sdk-12.0-sp3-win32.exe i- silent-f sdk-installer.properties -i silent  
-f
```

SDK のインストーラ プロパティファイルの名前を指定します。プロパティファイルがインストールの実行可能ファイルと同じディレクトリにない場合は、プロパティファイルへの相対パスを指定します。

```
-i
```

インストール モードを指定します。

インストールが完了します。

UNIX での無人インストール

SiteMinder SDK を手動でインストールした後は、同じシステム、または別のシステムにサイレント インストール モードを使用してインストールすることができます。無人インストールは、インストール基本設定のプロパティファイルを参照するコマンドを使用して行います。デフォルトのプロパティファイルのテンプレート (`install_config_info` フォルダ内の `sdk-installer.properties`) は要件に応じて変更可能です。

UNIX にサイレント モードで SDK をインストールする方法

1. SDK の実行可能ファイルが存在するディレクトリへ移動します。
2. コマンドプロンプトから、以下のコマンドを入力します。

```
sh ./ca-sdk-12.0-sp3-platform.bin i- silent -f sdk-installer.properties -i silent
```

`-f`

SDK のインストーラ プロパティファイルの名前を指定します。プロパティファイルがインストールの実行可能ファイルと同じディレクトリにない場合は、プロパティファイルへの相対パスを指定します。

`-i`

インストール モードを指定します。

インストールが完了します。

SDK のアンインストール

UNIX コンソールから SiteMinder SDK をアンインストールする方法

1. コンソール ウィンドウで、SDK インストール内の `install_config_info/ca-sdk-uninstall` ディレクトリに移動します。
`/export/ca/sdk/install_config_info/ca-sdk-uninstall`
2. 以下のコマンドを実行します。
`./uninstall -i console`
3. 要求されたら Enter キーを押してアンインストールを開始します。

注: UNIX 上の SDK をアンインストールする場合、JRE が PATH 変数内にあることを確認します。JRE が PATH 変数内がない場合、以下のようなエラーが発生します。

PATH 環境変数に Java 仮想マシンが見つかりませんでした。このプログラムを実行する前に VM をインストールする必要があります。

PATH に JRE を設定するには、以下の 2 つのコマンドを実行します。

1. `PATH=$PATH:JRE_location/bin`
例: `PATH=$PATH:/usr/bin/jdk141/jre/bin`
2. `export PATH`

Windows から SiteMinder SDK をアンインストールする方法

1. [コントロール パネル]で[プログラムの追加と削除]をダブルクリックします。
2. SiteMinder SDK r12.0 SP3 を選択して[変更と削除]をクリックします。

画面のプロンプトに従い、完了したら[閉じる]をクリックします。

第 6 章：一般的な考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ポリシー管理 API \(P. 23\)](#)

[カスタム エージェントでの SSO のサポート \(P. 23\)](#)

[カスタム エージェントおよび SiteMinder r12.0 SP3 \(P. 24\)](#)

[LDAP SDK の統合 \(P. 24\)](#)

ポリシー管理 API

SiteMinder v4.5 以降、Policy Management API に対する重大な変更が行われました。たとえばオブジェクトの一意の識別子としての OID の導入や、`Sm_PolicyApi_Init()`、`Sm_PolicyApi_Release()` のような機能の追加などです。

SiteMinder v4.5 よりも前のリリースから Policy Management API を引き続き使用する開発者は、以前のリリースに付属するドキュメントを参照してください。以上に加え、さらに以下の点に注意してください。

- SiteMinder SDK v6.0 SP 2 以降のバージョンは、SiteMinder v5.0 よりも前のリリースの Policy Management API をサポートしません。
- Policy Server v5.x は、SiteMinder v4.5 よりも前のリリースの Policy Management API で構築されたアプリケーションをサポートしません。

カスタム エージェントでの SSO のサポート

シングル サインオン サポートが有効であるとき、カスタム エージェントは前のリリースの標準の SiteMinder Web エージェントによって作成された SMSESSION シングル サインオン Cookie を受け取ることができます。

カスタム エージェントによって作成された SMSESSION Cookie を受け取るために、Web エージェントを少なくとも以下の用にアップグレードしておく必要があります。

QMR	サポートされる SiteMinder エージェント
4.x QMR4	SiteMinder v4.x Agents

適切な QMR にアップグレードした SiteMinder v4.x、v5.x または v6.x Web エージェントが、カスタム エージェントによって作成された SMSESSION Cookie を受け取るようにするには、Web エージェント設定ファイル (IIS サーバの場合は LocalConfig.conf、他のサーバの場合は WebAgent.conf)、または中心となる設定オブジェクト (v5.x 以上) に以下のエントリがある必要があります。

```
AcceptTPCookie="yes"
```

AcceptTPCookie を以下のように設定します。

- 4.x QMR4 エージェント以降では、標準エージェントのエージェント設定ファイル内に AcceptTPCookie="yes" を直接追加します。
- 5.x QMR1 エージェント以降では、そのオブジェクトの AllowLocalConfig パラメータが no に設定されている場合は、標準エージェントのエージェント設定オブジェクトにエントリを追加します。AllowLocalConfig が yes に設定されている場合は、Web エージェント設定ファイル中で AcceptTPCookie を設定することができます。

カスタム エージェントおよび SiteMinder r12.0 SP3

SDK r12.0 SP3 でカスタム エージェントを構築した場合、そのカスタム エージェントは v6.0 から r6.0 SP 5 および r12 のバージョンの Policy Server でのみ実行することができます。

SDK 5.5 の SiteMinder Agent API で構築したエージェントは、SiteMinder Policy Servers v5.x および v6.0 から r6.0 SP 5 までのバージョンで使用することができます。

LDAP SDK の統合

SiteMinder v5.5 SP 1 以降、ポリシー サーバは、iPlanet Directory SDK for C 5.08 (5.08 LDAP SDK) に統合されます。ユーザのカスタム コードが古いバージョンの LDAP SDK とリンクしている場合は、新しい SDK とのリンクの再作成が必要になる場合があります。

第 7 章：既知の問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[HP-UX 上で実行されるカスタム エージェントに必須のパッチ プログラム \(P. 25\)](#)

[UNIX プラットフォーム上の smpolicyapi Samplr に関する問題 \(P. 25\)](#)

[Java PM API で階層領域がサポートされない \(P. 26\)](#)

[Java ポリシー管理 API で見つからない定数がある\(13348\) \(P. 26\)](#)

[Java で属性の末尾がスペースになる\(13712\) \(P. 27\)](#)

[Java AgentAPI.getConfig\(\) で余分な ServerDef が作成される\(14841\) \(P. 27\)](#)

[Java SmPolicyApiimpl.search\(\) でドメイン オブジェクトを検索できない\(15133\) \(P. 27\)](#)

[Java SmDMSCurson オブジェクト内の並べ替え順序を空にできない\(15317\) \(P. 27\)](#)

[C での一般的なパスワード検証エラー\(16787\) \(P. 28\)](#)

[getConfig\(\) Java メソッドが Windows 環境で失敗する\(39780\) \(P. 28\)](#)

HP-UX 上で実行されるカスタム エージェントに必須のパッチ プログラム

HP-UX マシン上の Agent API で作成されたカスタム エージェントをインストールする前に、エージェント マシンに以下の HP パッチ プログラムをインストールします。

PHSS_24303 Id & linker tools cumulative patch

このパッチは HP の Web サイトから入手可能です。

UNIX プラットフォーム上の smpolicyapi Samplr に関する問題

Unix/Linux システム上で smpolicyapi サンプル プログラムを構築するには、複数のポリシー サーバ共有ライブラリへのアクセスが必要です。また、NETE_PS_ROOT 環境変数でそれらを参照するように設定する必要があります。これを行うには、SDK と共にポリシー サーバをシステムにインストールし、ca_ps_env.ksh を使用して環境設定を行う必要があります。

Java PM API で階層領域がサポートされない

階層領域は Java Policy Management API ではサポートされていません。

Java ポリシー管理 API で見つからない定数がある(13348)

Java クラス `com.netegrity.sdk.policyapi.SmPasswordPolicy` に以下の定数が見つかりません。

定数名	定数値
<code>Sm_PasswordPolicy_StopPriorityChaining</code>	<code>0x00000080</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_ExpireDisablePassword</code>	<code>0x00000100</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_FailuresDisablePassword</code>	<code>0x00000200</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_ForceCase</code>	<code>0x00000400</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_CaseSelect</code>	<code>0x00000800</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_CaseBits</code>	<code>0x00000c00</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_StripLeadingWhiteSpace</code>	<code>0x00001000</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_StripTrailingWhiteSpace</code>	<code>0x00002000</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_StripFlankingWhiteSpace</code>	<code>0x00003000</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_StripEmbeddedWhiteSpace</code>	<code>0x00004000</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_WhiteSpaceBits</code>	<code>0x00007000</code>
<code>Sm_PasswordPolicy_PreProcessBits</code>	<code>0x00007c00</code>

回避策: これらの値を設定する必要がある場合は、定数名を参照する代わりに、リテラル値を直接使用してください。

Java で属性の末尾がスペースになる (13712)

`decodeSSOToken()` が値を戻すとき、`AttributeList` パラメータ中で返される各属性 (バイト配列) がスペース文字で終了します。

回避策: セッション指定子およびセッション ID 属性を使用して `login()` を呼び出し、セッションを検証する前に、各バイト配列から終端のスペースを削除してください。

Java AgentAPI.getConfig() で余分な ServerDef が作成される (14841)

`Java AgentAPI.getConfig()` メソッドを使用して設定ファイルを読み取る際に、実際よりも 1 つ多い `ServerDef` オブジェクトを持つ `InitDef` オブジェクトが作成されます。余分なオブジェクトはどのポリシー サーバも指していない空のオブジェクトです。

Java SmPolicyApiImpl.search() でドメイン オブジェクトを検索できない (15133)

`com.netegrity.sdk.policyapi` パッケージでは、有効な検索パラメータが与えられても、検索するオブジェクトタイプがドメインである場合に、`PolicyApiImpl.search()` メソッドが空のリストを返します。

Java SmDMSCurson オブジェクト内の並べ替え順序を空にできない (15317)

Java DMS API では、`SmDmsCursor` を使用する呼び出し (`search()`、`getGroups()`、および `getMembers()` など) は空の並べ替え順序を指定するといずれの場合も失敗します。

C での一般的なパスワード検証エラー(16787)

パスワード検証エラーの ID は `Sm_PolicyApi_GetPasswordMsg()` の `nMsgId` パラメータでレポートされます。特定のエラー ID は `Sm_PolicyApi_PasswordMsgId_t` 内に列挙されます。`Sm_PolicyApi_PasswordMsgId_t` 内に列挙されないエラー ID はいずれも一般的なパスワード検証エラーと考えられます。一般的なパスワード検証エラー ID は `nMsgId` にレポートされ、`Sm_PolicyApi_GetPasswordMsg()` が戻り値として `-38` を返します。

getConfig() Java メソッドが Windows 環境で失敗する(39780)

Java クラス `AgentAPI` で、指定されたエージェントの場所が特定できないため、メソッド `getConfig()` が失敗します。このエラーは Windows プラットフォームでのみ発生します。

第 8 章: r12 SP1 および SP2 で修正された問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[レルムフィルタが一意ではないというエラーが発生する\(85423\) \(P. 29\)](#)

[decodeSSOToken 関数による SSO SMSESSION Cookie の正常なデコード\(82495/79193\) \(P. 30\)](#)

[Pure Java API によるより大きなバッファ サイズのサポート\(79220/82496\) \(P. 30\)](#)

レルム フィルタが一意ではないというエラーが発生する (85423)

症状:

「レルム フィルタが一意ではありません」というエラーが、ポリシー ストア オブジェクトの作成中に発生します。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号: 17107802

decodeSSOToken 関数による SSO SMSESSION Cookie の正常なデコード(82495/79193)

症状:

スタティック エージェント キーを共有している Cookie プロバイダ SSO を使用し、IE HTTP セッションから SMSESSION Cookie を抽出すると、Pure Java API の AgentAPI.decodeSSOToken () は SMSESSION Cookie をデコードできず、戻り値 -1 を返します。

解決方法:

Pure Java API の decodeSSOToken 関数は現在では正しく SSO SMSESSION Cookie をデコードします。

STAR イシュー番号: 17568332-1

Pure Java API によるより大きなバッファ サイズのサポート(79220/82496)

症状:

JNI バージョンは、サーバからのレスポンスに応じてバッファ サイズを増加させます。Pure Java エージェント API は固定サイズの ByteBuffer を渡します。Pure Java エージェント API 制限値である 32784 バイトが小さすぎます。

STAR イシュー番号 17428858-01

解決方法:

Pure Java API によって、トランスポート層に対してより大きなバッファ サイズがサポートされるようになりました。

第 9 章: r12 SP3 で修正された問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[トラステッド ホストに対してポリシー サーバの再起動が必要 \(95465\)](#) (P. 31)

[Pure Java エージェント API でセッション ID を無視/上書きする \(113753\)](#) (P. 31)

[DMS API getGroups メソッドの失敗 \(114378\)](#) (P. 32)

[Java API で新しいパスワード値を取得できない \(114394\)](#) (P. 32)

トラステッド ホストに対してポリシー サーバの再起動が必要 (95465)

症状:

C API によって作成されたトラステッド ホストを使用するには、ポリシー サーバの再起動が必要でした。

解決方法:

ポリシー サーバが修正され、ストアが解放される前にバッファ内のサーバコマンドが書き込まれるようになりました。再起動は必要なくなりました。

STAR イシュー番号: 17966870

Pure Java エージェント API でセッション ID を無視/上書きする (113753)

症状:

SessionDef パラメータによって渡されたときに Pure Java API が正しくセッション ID を設定していませんでした。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号: 19043761

DMS API getGroups メソッドの失敗 (114378)

症状:

DMS API getgroups メソッドが失敗し、LDAP ソートコントロールを作成できなかったというエラーメッセージが返されます。

解決方法:

この問題は修正されました。

STAR イシュー番号: 18891341

Java API で新しいパスワード値を取得できない (114394)

症状:

Java Authentication API で新しいパスワード値を取得できませんでした。新しいメソッドがこの値を返すために追加されました。

解決方法:

この問題は修正されました。

UserCredentialsContext クラスには、getNewPassword という新しいメソッドが含まれています。

STAR イシュー番号: 18921774:03

第 10 章：国際化サポート

「国際化」製品とは、所定のローカル言語版オペレーティング システムおよびサードパーティ製品上で正常に動作し、データの入出力においてローカル言語をサポートする英語版製品です。また、国際化製品は、日付、時間、通貨、および番号形式のローカル言語変換を指定できる機能をサポートしています。

「翻訳済み」製品（「ローカライズ済み」製品とも言います）とは、製品のユーザーインターフェース、オンラインヘルプ、その他ドキュメントのローカル言語サポートに加えて、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定をサポートする国際化製品です。

SiteMinder は、SiteMinder r12sp3 J 用のプラットフォーム サポート マトリックスで示されているとおりに、国際化およびローカライズが行われています。

第 11 章: マニュアル

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) (P. 35)

[マニュアルのリリース番号](#) (P. 35)

SiteMinder マニュアル選択メニュー

SiteMinder に関する詳細情報は [SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) から参照できます。[SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) を使用すると、以下のことを実行できます。

- 1 つのコンソールを使用して [SiteMinder](#) について公開されているすべてのドキュメントを表示する。
- 1 つのアルファベット順索引を使用して、任意のマニュアル内のトピックを見つける。
- すべてのマニュアルで 1 つ以上の単語を検索する。

[CA テクニカル サポート サイト](#) から [SiteMinder マニュアル選択メニュー](#) を表示してダウンロードします。マニュアル選択メニューにアクセスするためにサイトにログインする必要はありません。

ドキュメントをダウンロードする予定である場合は、インストールを開始する前にダウンロードすることをお勧めします。

マニュアルのリリース番号

マニュアルの表紙に記載されているリリース番号は、必ずしも現在の製品リリース番号に対応するとは限りません。しかし、製品と併せて提供されるすべてのドキュメントは、表紙に記載されているリリース番号に関係なく、その製品リリースをサポートします。

リリース番号は、新規または更新された製品のリリースをサポートするためにマニュアルが大幅に変更される場合のみ変更されます。マニュアルに実質的な変更が加えられていない場合、リリース番号は変わりません。たとえば、**r12** 用のマニュアルは、**r12 SP1** でも有効です。マニュアルのブックシェルフは常に現在の製品リリース番号を反映しています。

場合によっては、新規または更新のリリース以外でマニュアルが更新されることもあります。サポートするすべてのリリースでマニュアルの記述が無効にならないよう、わずかな変更が施されたことを示すために、カバー ページの版番号が更新されます。最初のエディションには、エディション番号はありません。